

京都産業大学ロースクール通信

KYOTO SANGYO UNIVERSITY
LAW SCHOOL

Professional Legal Studies

\star \$\times\$\tim

- CONTENTS -

1:消費者問題シンポジウム開催報告

2:新入生交歓会

3: 専任教員リレーエッセイ 第11回 (山本 宣之 教授)

4:お知らせ

▼△▼ 3:専任教員リレーエッセイ第11回(山本 宣之教授)☆彡

「それは不公平」

山本 宣之

興味のない人には申し訳ないが、サッカーの話である。かつて J リーグでは、90 分間で同点のとき、延長戦で V ゴール方式 (どちらかが先に得点した時点で試合終了となる)をとっていた。見た目には劇的な面白さがあるが、各チームが総当たりで対戦して勝ち点の合計を争うリーグ戦では、引き分けが世界標準であるから、延長戦も V ゴールもかなり特殊なルールであった。

トーナメント戦では、1ゲームごとに勝者を決めなければならないので、世界的にも延長戦はある。W杯もそうである。少し前までの10年ほどは、ゴールデンゴールという名でVゴールと同じ方式も使われていたが、主要な大会ではもはや廃止されている。その廃止の理由の1つが、ここでの問題である。W杯に次ぐ規模で知られるヨーロッパ選手権は、1996年と2000年の2大会連続で、ゴールデンゴールによって優勝国が決まった。そして、どちらの大会後も、選手や関係者やサポーターから、この方式は「不公平だ」というコメントが出された。母国ドイツがゴールデンゴールで優勝を決めたにもかかわらず、のちにベッケンバウアーは「これまでで最も愚かなルール」とまで非難している。

サッカーではボールを奪った方が攻め、奪われた方が守る。そこには予測できない流れがあり、攻守が頻繁に入れ替わることもあれば、ボールを奪えずに防戦一方になったり、突如として猛攻に転じたりすることもある。攻撃の機会がどちらに早く訪れ、どちらが早

く得点機をつかむかは、問題ではない。重要なのは、一定の時間が 経過した後の最終的な得点の大小である。得点の早さを競うゴール デンゴールは、このゲームの本質に反するというわけである。

JリーグでVゴールが廃止されたのは、延長戦をやめて引き分け制が導入された結果である。少なくとも、不公平だという批判は、声高には伝わってこなかった。何よりもルールの適用を受ける対象の洞察、そしてルールを支配すべき公平という法的評価の理解、不公平に敏感に反応する法的意識の浸透、その見えない差の1つの現れかも知れない。

いずれこの差を埋められるだろうか。